

## 台湾 summer school の感想

王振磐

8月18日に、私は興奮した気持ちで台湾へ行きました。約二週間の台湾 summer school にとても期待していました。

台湾科技大学では、いろいろな面白い授業を受けました。ストレスと文化衝撃の授業では、読むことと話すことを通して、異なる文化を持つ人々の気持ちをよく理解しました。また、王教授は微生物燃料電池を丁寧に紹介しました。その後、実験室で燃料電池の実験をしました。実験でより深い知識を得ました。創造力と認識力の授業を通して、ものごとを異なる方式で探求することを学びました。生物工学技術材料の授業では、ねずみを解剖しました。私は初めて生物を解剖しました。私はそのすべての過程において非常に緊張していました。

授業以外の時間には、台湾を牽引する会社を見学しました、担当者が会社の概要、経営理念と未来の展望を丁寧に紹介しました。そして、生産活動を行う工場を見学しました。私は台湾の会社の高品質、高効率、高技術に驚きました。GARMIN は自動車、船舶、室外とスポーツの GPS 技術を研究していて、GPS 市場で優位を占めています。工場では、スマート化が進んでいて在庫管理が自動化されていました。

日本の資生堂は、有名な化粧品メーカーですが、驚くことに、1957年から、資生堂は台湾での販売を開始していました。それ以来、資生堂はグローバル化を展開しています。台湾の顧客のニーズに合わせるなど、マーケティングに力を入れています。私たちは、資生堂の社員の説明を受けながら、工場を見学しました。化粧品の生産ラインは効率化され、厳しい温度管理がなされていました。

ところで、8月19日には、すばらしいレストランでレセプションが行われました。始めは、知り合いがいなくて戸惑いましたが、美味しいものを食べながら会話を交わすうち、メンバーとの関係がよくなりました。その日、雨が降りましたが、皆、上機嫌でした。台湾の気候は日本と似通っていると思います。季節によって雨がよく降ります。

さて、私のルームメイトは2人でした。一人は台湾科技大学の学生で、もう一人が日本の九州大学の学生でした。朝、三人で一緒に朝ごはんを食べました。通常、台湾の人は朝ごはんを街中の店で食べます。でも、日本にそのような店はあまりありません。台湾の伝統的な朝ごはんとしては、蛋餅（dan bing、卵のクレープ）やミルクティー、や小籠包

(xiao long bao) などがあります。それらは安いし、美味しいです。

夜は、皆一緒に有名な夜市へ行きました。美味しいものを食べながら、台湾の独特の文化を体験しました。台湾の人は非常に情熱的です。台湾で人々はバイクで通勤、通学します。そして、台湾では多くのトロピカルフルーツを売っています。日本より安いです。

ある夜、全員が台湾の有名な象山 (xiang shan) でハイキングをしました。象山は標高が高く、非常に疲れましたが、山頂に達すると、台北 のきれい風景を見ることができました。その瞬間、すべての疲労感が消えました。記念ため、全員が写真を撮りました。

最終日は有名なレストランで送別会が行われました、最初のレセプションと違い、皆と別れるのが名残り惜しかったです。

台湾での summer school を通して、台湾の会社、文化、伝統、教育を体験し、よく理解できました。